

令和3年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目

学校経営中期取組目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
<p>学校教育目標実現のために、〔希望〕〔幸福〕〔他愛〕あふれる、児童・保護者・地域・教職員にとって魅力ある学校づくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもが、主体的に課題を解決する学びを大切に、授業力の向上に取り組みます。 一人ひとりの子どもに寄り添い、互いを認め合う豊かな心や、たくましく健やかな体を育むように努めます。 一人ひとりの子どもの学びと生活を支える教育環境の整備、改善を進めます。 一人ひとりの子どもが、地域行事や地域との交流活動等を通して、まちに貢献する心を育みます。 近隣の幼保小中高大学連携を進め、教育活動の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題発見力 解決能力 言語能力 自分づくり

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
生きてはたらく 知	育成を目指す資質・能力を明確にし、教科横断的な授業づくりを追究します。	<ul style="list-style-type: none"> 校内重点研究として、算数と他教科をからめた単元づくりをして、子どもの学習意欲の向上を図ります。 年間カリキュラムを見直し、改善していきます。 スタディールームや少人数指導を取り入れて、一人一人のニーズに合った指導を心がけます。
担当	教育課程部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力・意識の概要 ※令和2年度は調査の実施なし。学習意識アンケートのみ独自で実施

【学力】

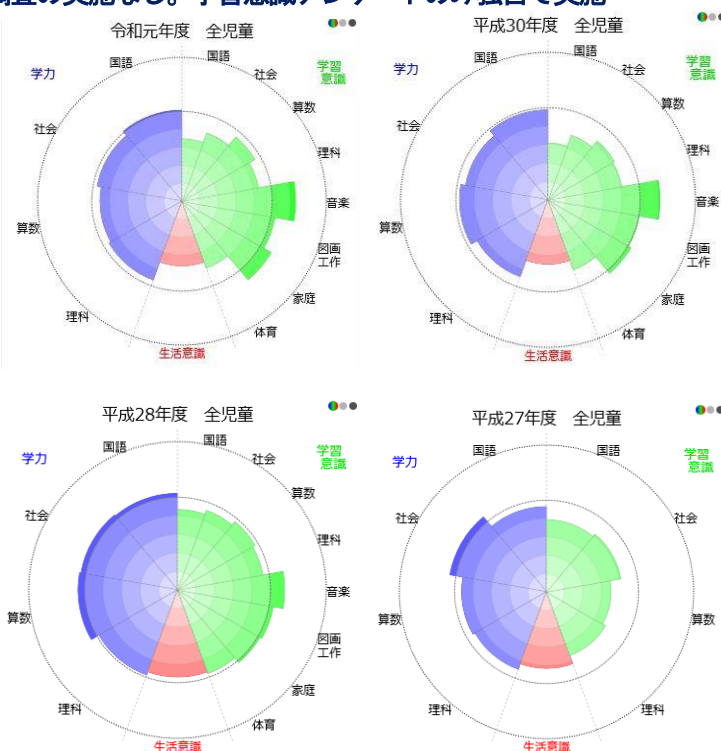
- 各教科の学力は市の平均と比較してほぼ同程度。
- H29年度より低下してきている。

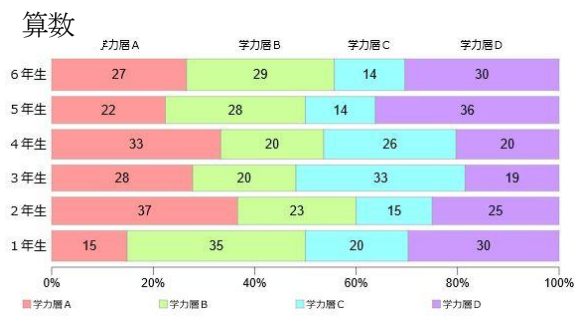
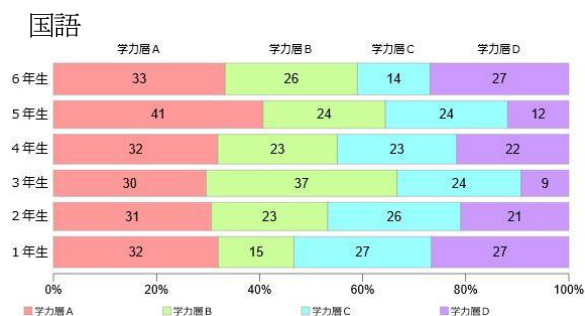
【学習意識】

- H28年度に比べると低下している。
- 目的を意識して学習している児童の割合が低下。その他ほぼ変化なし。
- A層の児童は、D層の児童より「勉強が好き」と答えている割合が高い。
- A層の半数以上が、自分の考えを発言している。C層D層の児童は、その割合が低くなる傾向がある。
- 「活用」の項目が全体的に低下。
- 「どちらかと言えば理解した」の回答率が全体的に向上。

【生活意識】

- 高学年においては、家庭学習の時間、携帯・スマートフォンの使用時間と学力と関係していると考えられる。





【国語】

- ・A層約3割、D層約2割とこれまでとほぼ変化はない。
- ・低学年は「書く」、高学年は「読む」「話す」が低下。

【算数】

- ・A層・D層ともに約3割程度。H28年度よりA層約7%減、D層約7%増。
- ・多くの学年で「技能」が低下

(2) 要因の分析

- ・子どもにとって必要感のある問いが生み出されていないことが学習の目的意識の低下につながっているのではないかと。
- ・子ども自身がそれぞれの教科の学習を通して、「何を学ぶことができたのか。」や「何が分かって何が分からなかったのか」について、メタ認知できていないのではないかと。
- ・教員の授業力向上のための

3 令和2年度 学年・教科等としての具体的取組

子どもの学びづくり

今年度は昨年度に引き続き校内授業研究では、より子どもが自らひと・こと・ものとのかかわりを求めたり、よりよいものを求めて試行錯誤したりして、主体的・協働的に追究しよう、したいと子どもが動き出す学びのデザイン(教科横断的な授業デザイン)に重点をおく。そうすることで、子どもにとって「解決すべき問題は何か。」や「そのためにどうするか」を考える意欲や力の向上、自分の考えを表現したり友達と互いに考えを深め合ったりするための言語能力の育成、課題に対して進んで粘り強く取り組む姿勢や協働的に行動しようとする自分づくりに関する力の育成を目指す。そのために、「算数」を軸として、他教科と絡ませた授業展開をデザインすることで、子どもの生活に根差した学びを各学年で展開していく。さらに、少人数制の授業やスタディールーム(SR)などの実施により、子ども一人ひとりを丁寧にみとり、学びを厚く支えていけるような取り組みを行っていく。

算数少人数	岸谷 SR	スキル・読書タイム	家庭学習
少人数グループでの学習指導体制をとる。個の実態の把握に努め、個に応じた支援を行う。	特に、学力低下に不安がある子は、週1回、取り出して、個に応じた課題に取り組む時間を設け、支援を行う。	週3日、朝の時間を活用し、計算や漢字などのスキル学習を行う。繰り返すことで基礎的・基本的な学習事項の定着を図る。	各学年、子どもの実態に合わせた課題で、家庭学習を行うことで、家庭と連携し学習の習慣化を図る。